

2010年3月期(第14期)  
第1四半期 決算説明会資料

(2009年4月～2009年6月)

2009年8月7日

日本通信株式会社

- I. 第1四半期決算の概要
- II. 事業の概況
- III. 今後の成長戦略

<ご注意>

本資料に記載された見解、見通し、および予測等は、本資料作成時点での当社の判断によるものです。当社では、これらの情報の正確性を保証するものではありません。また、今後の市場環境の変化等の様々な要因により、今後の見通しおよび予測等が本資料とは異なるものとなる可能性があります。何卒ご承知おきくださいますよう、お願い申し上げます。

# 1. 第1四半期決算の概要

常務取締役CFO

福田 尚久

# 【連結】 損益の概要

単位: 百万円	08/4Q (1-3)	09/1Q (4-6)	Q/Q	08/1Q (4-6)	Y/Y
売上高	779	<b>560</b>	△218	639	△78
データ通信事業	673	<b>465</b>	△207	482	△16
音声事業	106	<b>94</b>	△11	156	△62
売上総利益	246	<b>95</b>	△151	112	△17
売上総利益率	31.6%	<b>17.0%</b>	—	17.6%	—
販売費及び一般管理費	372	<b>390</b>	18	382	8
販管费率	47.8%	<b>69.7%</b>	—	59.9%	—
営業利益	△126	<b>△295</b>	△169	△270	△25
営業利益率	—	—	—	—	—
経常利益	△55	<b>△327</b>	△272	△246	△80
経常利益率	—	—	—	—	—
特別利益	—	—	—	—	—
特別損失	0	0	—	0	—
第1四半期純利益	△48	<b>△329</b>	△281	△248	△80
第1四半期純利益率	—	—	—	—	—

3G製品ミックスの影響  
(39,900円→14,800円)

計画通り縮小

既存事業及びDoccicaの影響

今後の成長戦略のため  
人的投資を開始

為替差損25百万円

# 【連結】 資産・負債の推移

単位:百万円	08/4Q末 (3月末)	09/1Q末 (6月末)	Q/Q
流動資産	1,088	1,158	70
現預金同等物	422	518	96
売掛金	409	313	△96
商品	188	276	88
固定資産	1,354	1,308	△45
有形固定資産	272	255	△17
無形固定資産	1,014	988	△25
投資等	66	64	△2
流動負債	1,250	1,087	△163
買掛金	279	285	5
短期借入金	314	247	△66
固定負債	886	882	△4
純資産	305	497	192
総資産	2,442	2,467	25

3月末は需要期による  
季節要因

3G製品ミックスの影響に  
より繰延利益額が減少  
(111百万円)

資本調達485百万円

# 【連結】 キャッシュ・フローの推移

単位:百万円	08/4Q末 (1-3)	09/1Q末 (4-6)	Q/Q
営業活動による キャッシュ・フロー	△159	△273	△114
投資活動による キャッシュ・フロー	△17	△41	△23
財務活動による キャッシュ・フロー	△91	413	504
現金及び現金同等物に 係る換算差額	6	△2	△8
現金及び現金同等物 の増減額	△261	96	357
現金及び現金同等物の 期末残高	422	518	96

● ノウハウビジネスのため  
人的資源が当社の投資

● エクイティ・コミットメント  
ラインによる資金調達  
475百万円

## 2. 事業の概況

# 日本通信 成長の方程式

MVNO × MVNE × Global  
最先端MVNO事業モデル      パートナーMVNOの成功      日本発 米・欧・亜へ

= JCI's Unique Growth Model

日本通信独自の成長モデル

## ①法人向けサービス（ICare3G）

- 想定以上の経済問題の影響
- パートナー向けMVNOとの共同営業（スキル・トランスファーの一環）による直販営業への影響

## ②個人向けサービス（b-mobile3G, Doccica）

- 前四半期（Q4）は大学特需時期
- Doccica（14,800円）による単価の低下→短期的には売上減少
- チャージ式製品の投入と市場評価

## ③M2M向けサービス（通信電池）

- 事例作りに集中
- 米国でのATM案件をレバレッジ

# MVNE事業の状況

2008年 8月 6日      ドコモと相互接続協定締結

MVNO参入意向企業から引き合い

2008年11月14日      MVNE戦略発表

2009年 3月16日      レイヤー2接続完了  
→いかなるMVNOの要望も対応可能に

MVNO開拓を本格化

昨日までに7社が新たにMVNO参入 enabled by 日本通信

# MVNE事業の状況

発表日	MVNO事業分野	パートナー名
4月14日	営業支援システム	ソフトブレーン・インテグレーション
6月19日	タクシー自動配車システム	モバイルクリエイト
7月 2日	北海道の無線ネットワーク事業者	ワイコム
7月 7日	岡山をベースとしたISP・CATV事業者(他に4地域)	エヌディエス
7月 8日	法人向けネットワーク事業者	三菱電機情報ネットワーク
7月23日	IP電話	ナムザック・ジャパン
8月 5日	世界最大のPCメーカー	ヒューレット・パッカード(HP)

様々な分野におけるMVNOを支援

## ①米国のATM向けを開拓

- 昨年6月にユビキタス専用線関連でPCI-DSS(セキュリティ基準)認定
- 既に45社以上の法人顧客アカウント
- Q1は端末(ATM用特殊通信装置)の遅れが影響
- ATM向けをレバレッジし、他の分野を開拓開始

## ②現在実現可能な日米にまたがる案件を開拓

## ③日本で実現したモバイル・オープン環境を海外に働きかけ

# HP MobileBroadband



世界最大のパソコンメーカー

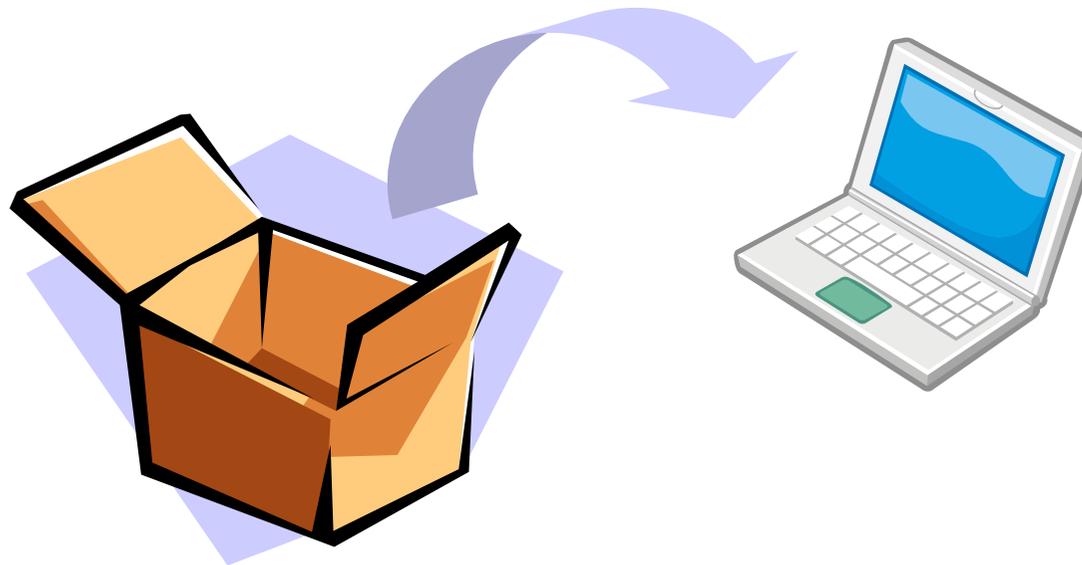
+

世界最高のモバイル・ネットワーク

# デモ

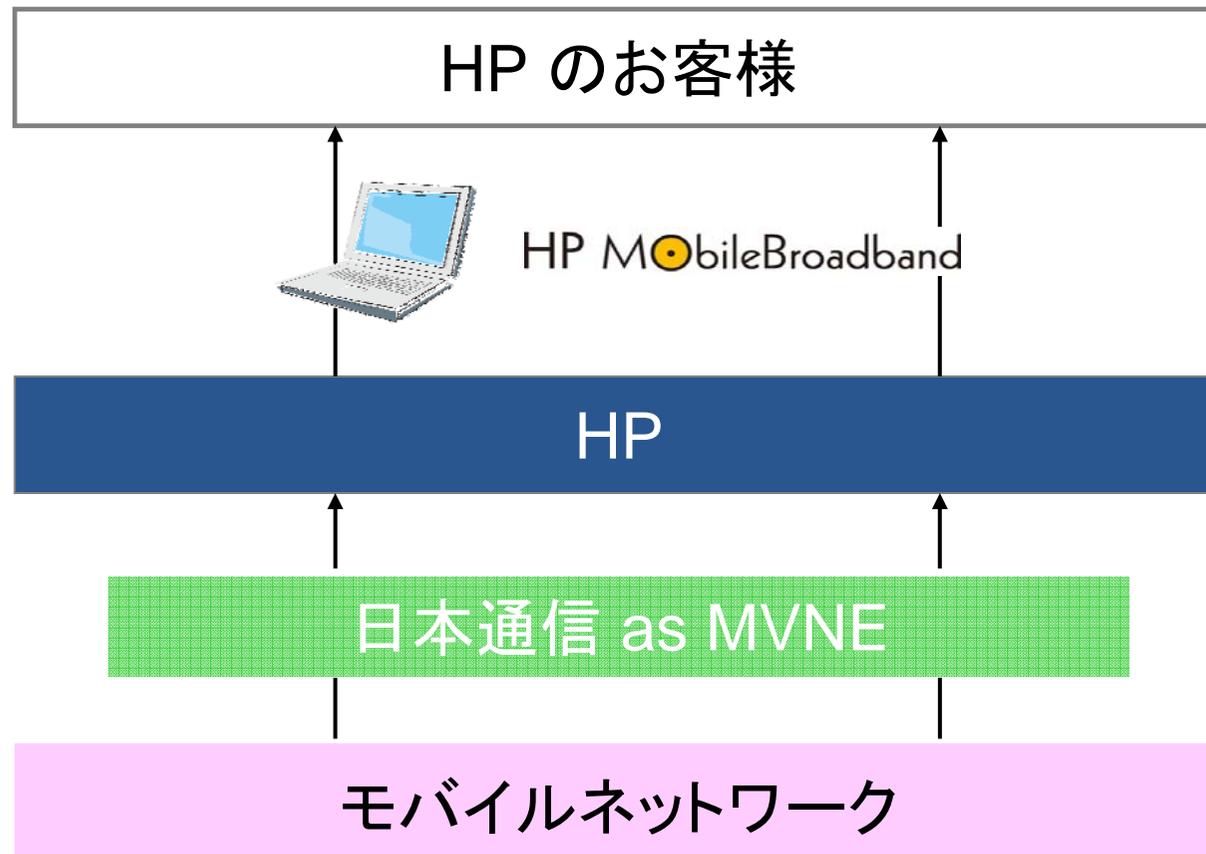
# NetBookを再定義

定義： **箱からインターネット**



# 新たな事業モデル

## パラダイムシフト

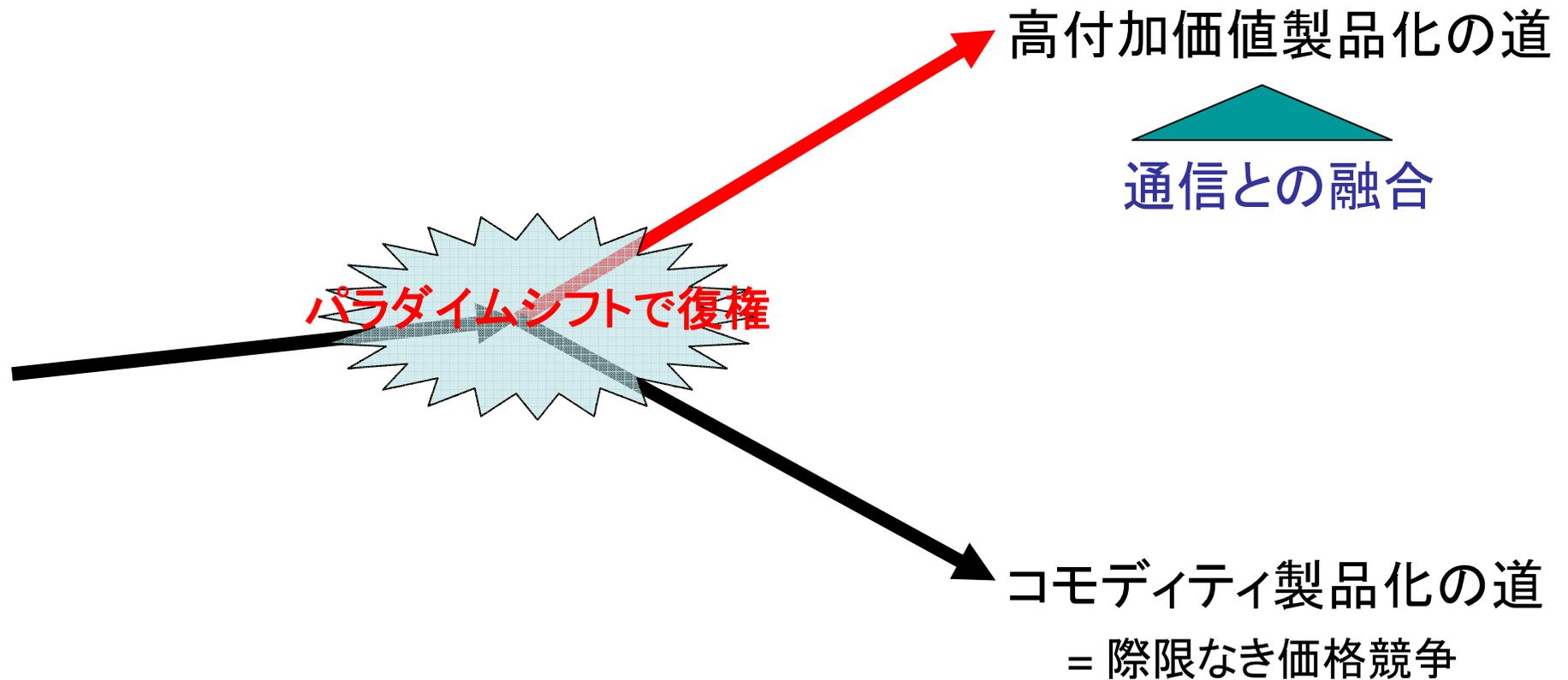


# 3. 今後の成長戦略

代表取締役社長

三田 聖二

# メーカーの復権シナリオ



# 今期の連結業績予想

単位(百万円)

	Q1 (実績)	Q2 (予想)	Q3 + Q4	通期 (予想)
売上高	560	560		4,200
営業利益	△ 295	△ 295		130
経常利益	△ 327	△ 327		105
純利益	△ 329	△ 329		100

相互接続から今日で1年

# Happy Birthday !



**MVNOの基礎は完成**

# 1年前の約束

- ①MVNOをやって良かったと  
ドコモに思ってもらおうこと
  
- ②実績により信用を得ること

# これからは

**日本のメーカーを世界のリーダーに復活**

日本通信の使命：**通信を部品として提供するMVNE**

**次世代インターネットを日本から出発**

日本通信の使命：**このモデルをグローバルに展開するMVNE**

MVNO

×

MVNE

×

Global

# Q & A